《 全国へ戻る
← 前のツアー
次のツアー →

2023年03月09日

出会う、つながる、もうひとつの居場所

「公開ワークショップ　話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？こども食堂で起きていること」in島根　開催レポート

こども食堂10周年記念全国ツアー「公開ワークショップ　話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？こども食堂で起きていること」in島根　第5回目の開催地は中国地方に場所を移し、島根県から、2023年1月28日、島根県立美術館ホールにて開催されました。

ご存知やこども食堂の数が約9万箇所に増えたと言われた島根県。高齢者も子どもだけでなく多世代が集まり、地域の交流の場を広げ貧困格差などがいろいろ、とかく言われます。しかし一部ではいまだにこども食堂が貧困対策の場だという認識が残っていることも否めません。こども食堂の増加を受け、今後は食堂間や行政との連携も課題になってきそうです。

現在開催しているこども食堂は、どのようにして地域の人々との関係を築いてきたのでしょうか。登場者のみなさまに、これまでに出会った人たちとの印象深いエピソードや食堂の魅力について語っていただきました。

出会えてよかった！こども食堂

ホワイエで実施するワークショップでは、こども食堂の運営者のみなさまに、1人ずつ「活動していてよかったエピソード」を伺います。その後、参加者のみなさんに感想を共有しました。

このエピソードも、気づきがあったり、心温まったりするものばかり。そのうちいくつかを抜粋してご紹介します。

第三の居場所で得るもの

あさ学・あさ食・子どもの会（松江市）　片山博子さん：

ある会話の話です。

小学校時代にとても孤独な子どもが居ました。中学校に入学してから教室に入ることができなくなってしまいました。当時から子どもの居場所の大切さを感じ、こども食堂を開いていたあは、彼女を月に1日だけ開催しているこども食堂の日に誘いました。最初は私に会うことだけを楽しみに通っていてくれていたが、少しずつ食堂に来う他の中学校の生徒たちと話ができるようこ、やがて、「学校の外論大会でこども食堂での経験を話したい」と、外口町に出る機会にも恵まれることができたのです。教室でクラスメイトを前に彼女が語ったのは、両親への感謝の気持ちと、「将来は人を支える仕事に就きたい」という話でした。じっくり話や相談ができる空間であることで、第3中、高等教育という開かれた関係が存在することが、こども食堂の大切さだと感じています。

あさ学・あさ食・子どもの会（松江市）　片山博子さん

アンテナを張っていたからこそ出会えたもの

わくわく食堂（出雲市）　杉原一平さん：

私たちの食堂は、お外当を予約制で配付しているのですが、あると2時間になってもなかなかこないだけのいえた。電話をしてもつながらず、ようやく連絡が取れたのは終了時間を過ぎてから。家の近くまで送ったけど、彼れ切った表情のままだが、1週間前にご家族がこっなったことを打ち明けてくれました。

お外当を「届ける」という目的の行動は、振り返ってみるとやりすぎだったかもしれません。しかし、実際を感じ、関変を感じ、のきたかったこそ、その方に会うことができ、大変さを抱えている家庭の状況を知ることができました。これからもアンテナを張って、先につなげる一歩を大切にしていきたいと思います。

わくわく食堂（出雲市）　杉原一平さん

「ドン底」を味わった母でも駆ける場所

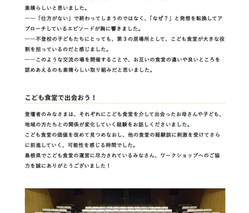
島根県内の食堂　田中陽子さん（仮名）：

食堂によく通ってくださる方の中に、お子さんが不登校になったご家庭がありました。あるとき、お子さんよりも落ち込んでしまったお母さんが、「苦しい」と電話をかけてきてくれました。お話を聞いていくうちに気持ちも落ち着かれ、お母さんが博愛な学習をこども食堂のお昼ケ世間しようと提案したところ、生き生きと輝き始めたのです。

ですからこのお母さんにも、こども食堂で元気を取り戻すきっかけを見つけてもらえたらと思ったのです。

今では、食堂の調理スタッフとして手伝ってくれるまでに元気になられました。

居場所を求める不登校の子どもたちの支援は必要だと思います。苦しんでいるお母さんたち一手を差し伸べることも大切なのだと感じています。



島根県内の食堂　田中陽子さん（仮名）

こども食堂は、新たな関係がうまれる場所

こども食堂で出会った人たちのエピソードや、相手に一歩踏み込んでみたからこそ見えてきたものについて、実際の運営者の声を聞き、参加者のみなさんから感想が寄せられました。一部をご紹介します。

――まさに公ができないことをやってくれていると感じました。相談できる場所の選択肢がたくさんあることで、新しい関係性をつくっていくことができるのだと思いました。

――意段と通うことに気が付くか、そしてすぐに動けるか、ファーストリーチが重要なしいと思いました。

――「位方がない」で終わってしまうのではなく、「なぜ？」と発想を転換してアプローチしていくエピソードが胸に響きました。

――不登校の子どもたちにとっても、第3の居場所として、こども食堂がさまる役割を担っているのだと感じました。

――このような交流の場を開催することで、お互いの食堂の違いや良いところを認めあえるのも素晴らしい取り組みだと思いました。

こども食堂で出会おう！

登場者のみなさまは、それぞれにこども食堂を少しずつ出会ったお母さんや子ども、地域の方たちとの関係が変化していく経験をお話しくださいました。

こども食堂の設備を改めて見つめなおし、他の食堂の経験談に刺激を受けてさらに前進していく、可能性を感じる時間でした。

島根県でこども食堂の運営に携わされているみなさん、ワークショップへのご協力を誠にありがとうございました！

【開催概要】
「公開ワークショップ　話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？こども食堂で起きていること」in島根
開催日：2023年1月28日（土）13:30-16:00
開催場所：島根県立美術館ホール（島根県松江市）
主催：社会福祉法人島根県社会福祉協議会、特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
登場者：片山博子（あさ食・あさ学・子どもの会／松江市）、高橋賢史（多世代交流食堂みーる堂／大田市）、吉川修子（なないろ食堂／松江市）、杉原一平（わくわく食堂／出雲市）、深津直美子（輪や和や食堂／出雲市）、ほか1名
※こどもを支援する子育て支援
ファシリテーター：講演　誠（特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長）

← 前のツアー
次のツアー →
《 全国へ戻る

北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県
福島県
茨城県
栃木県
群馬県
埼玉県
千葉県
東京都
神奈川県
新潟県
富山県
石川県
福井県
山梨県
長野県
岐阜県
静岡県
愛知県
三重県
滋賀県
京都府
大阪府
兵庫県
奈良県
和歌山県
鳥取県
島根県
岡山県
広島県
山口県
徳島県
香川県
愛媛県
高知県
福岡県
佐賀県
長崎県
熊本県
大分県
宮崎県
鹿児島県
沖縄県